

次号予告

特集 さきがけというフロンティアで探求する情報系研究者達

金融ビッグデータによるバブルの早期警戒技術の創出—バブルの検出・キッカケ・波及—
.....水野貴之（総合研究大学院大学）
統計的有意性を担保するパターンマイニング技術.....杉山磨人（大阪大学）
育種と統計とデータさきがけ.....小野木章雄（東京大学）
非テキストデータと接続可能なテキスト解析・推論技術の研究開発.....宮尾祐介（国立情報学研究所）
高次知識を獲得するリソース指向型オンラインマイニング法の開発.....山本泰生（山梨大学）

メーリングリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.osrj.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

編集後記

●第62巻第3号の特集は「多目的意思決定の深化と応用」でした。意思決定は小さなものから大きなものまで、われわれの生活で必要不可欠な選択を伴う行為です。損失が小さい場合は、勘と経験に頼った意思決定を行うことが多いかもしれませんが、損失が大きくなる場合はより慎重になるはずで、そんなときには、数理モデルによる代替案の提示と、不確実性を考慮した代替案の選択が重要になってくるでしょう。

●近い将来には、最近話題のAIが人によって変わって意思決定をしてくれるかもしれません。不確実性を減らすためにより多くの情報を瞬時に入手し、合理的な意思決定のために数理モデルを利用して解を算出し、代替案の中から最良のものを提示してくれるかもしれません。そうなるこの世界と人はどうなってしまうので

しょう。おそらく完全競争市場に近づいていくのでしょね。また意思決定という行為を奪われた人はどうなるのでしょうか？ある銀行員の方はAIが融資先を決めるようになると、がんばっている町工場のおっちゃんに融資ができなくなるかもしれないと言っていました。今は数値以外にも、調査員が肌で感じたおっちゃんの展望などに投資することもあるそうです。そういう話を聞くと結果の良し悪しは別にして、改めて人の意思決定には、ほっとする一面もあり、人が意思決定をする限りは、合理的意思決定は難しいのではないかと思います。アメリカ大統領にトランプ氏が就任し、より見通しが難しい世界になると言われていますが、未来のために転機になる意思決定を期待します。

（中原孝信）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 猿渡 康文（筑波大学）

特集担当編集委員 蓮池 隆（早稲田大学）

委員 池辺 淑子（東京理科大学）、石井 儀光（国立研究開発法人建築研究所）、井床 利生（日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所）、鶴飼 孝盛（慶應義塾大学）、小林 隆史（立正大学）、榎原 静（株式会社東芝）、佐久間 大（防衛大学校）、笹谷 俊徳（東京ガス株式会社）、佐藤 圭介（公益財団法人鉄道総合技術研究所）、高野 祐一（専修大学）、中原 孝信（専修大学）、生田目 崇（中央大学）、蓮池 隆（早稲田大学）、原田 耕平（株式会社NTTデータ数理システム）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成29年3月号 第62巻 第3号 通巻675号

代表者 大山 達雄

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 猿渡 康文

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

- ・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。
- ・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。